

チャレンジ ワークシート①

名前	組番		月日	正答数
				8

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

〔陽子(六年生)は地域の卓球クラブの選手。そこに美月(中学一年生)が入部した。美月は卓球をやめたことがあり、陽子は、美月がまたやめるのではないかと思っている。ある朝、陽子は先輩の広海にさそわれて公園に行った。〕

「見せたいものがあるんだ。だまってる。」

「え、なに。」

広海先輩がそれっきり答えず、すべり台のかけからブランコの方角を見ているので、陽子は広海先輩の背中を見ることができた。こうやってすぐそばに立つと、ずいぶん背が高くなったんだな、と思う。陽子も百五十五センチあって、クラスの女子では後ろから三番目なのだけれど、広海先輩は百七十七センチ近くあるみたいで、顔の位置が全然違う。

①「来た。つーか、トイレの後ろにかくれたほうがよかったな。ここだとバレるかも。もう遅いけど。」

②ひとりごとを言いながら、広海先輩はしゃがみこんだ。

「あ……。」

陽子もしかみがけたのだが、途中でストップしてしまった。来たのは、美月ではないか。白のびたびたのTシャツを着て、髪の毛をぎゅっとおだんごにして、上半身だけ見たら、バレリーナみたいだ。下はトレパンだけれど。

美月はブランコの横にあるベンチに陣取った。背中にしよっていたリュックをそこに置いて、中からなわとびを取り出した。ぶんぶんぶんと、とびはじめる。最初は二重とび、その後、ハヤブサとび、最後は三重とびをやって、しばいしたところで、リュックから今度はタオルを出して、顔をふいている。そして、次に取り出したのは卓球のシェイクハンドのラケットだった。シュッシュシュ。まずはフォアハンドの素振り。続いてバックハンド。四回に一回はバックハンドスマッシュで、大きく振りぬいている。

「あいつさ、クラブに入部してから、毎日ずっとやってるんだ。ひとり朝練。」

※注 1 シェイクハンド：ラケットのにぎり方の一つ。

2 フォアハンド：ラケットを持つ手の側に来た球を打つこと。反対側に来た球を打つのが「バックハンド」。

(吉野万理子「チームみらい」より)

(1) 位置^アの読み方を、ひらがなで書きましょう。

(2) しっ^イぱいを、漢字に直して書きましょう。

(3) この場面で、陽子はどこにいますか。次から一つ選びましょう。

- 1 すべり台のかげで、広海の前にいる。
- 2 すべり台のかげで、広海の後ろにいる。
- 3 ブランコの横で、広海の前にいる。
- 4 ブランコの横で、広海の後ろにいる。

〔 〕

(4) 来^①たとありますが、だれが来たのですか。その人物の名前を、文章中からぬき出しましょう。

〔 〕

(5) ひ^②とりごとを言いながら、広海先輩はしゃがみこんだという文の主語は何ですか。次から一つ選びましょう。

- 1 ひとりごとを 2 言いながら
- 3 広海先輩は 4 しゃがみこんだ

〔 〕

(6) リ^③ュックをは、どの言葉をくわしくしていますか。次から一つ選びましょう。

- 1 そこに 2 置いて
- 3 中から 4 取り出した

〔 〕

(7) 美月があせを聞いたことがわかる部分を、文章中から十五字でぬき出しましょう。(「、」も一字に数えます。)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(8) 広海が陽子を公園に連れてきたのは、なぜだと考えられますか。次の「」にあてはまる言葉を書きましょう。

〔 〕

〔 こと、 〕

美月が卓球をやめる心配はないと、陽子に思わせるため。

チャレンジワークシート①



- (1) いち
(2) 失敗
(3) 2
(4) 美月
(5) 3
(6) 2
(7) タオルを出して、顔をふいてい
る
(8) 例 美月が(ひとりで)朝練をして
いる様子を見せる

- (3) 「広海先輩が……すべり台のかけ
から……陽子は広海先輩の背中を見
ることにした。こうやってすぐそば
に立つ」という部分から読み取り
ましょう。
(4) 少しあとに「来たのは、美月では
ないか。」とあります。
(7) なわとびをしてあせを聞いたため
に、タオルを出して顔をふいたのだ
と考えられます。
(8) 最初と最後に書かれている、広海
の言葉から考えましょう。

チャレンジ ワークシート②

組 番		月 日	正答数
名前			8

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

モグラは、なんのために、トンネルを掘るのでしょ^ほうか。また、どんな方法で、えものをとらえているのでしょうか。

わたしは、モグラにあたえるミミズをさがしているうちに、おもしろいことに気づきました。ミミズは、落ち葉の集まった落ち葉だまりで、よくとれ^①ます。ぜんぶ^②とっても、ほかから集まってくるので、次の日には、またとれます。ところが、同じ落ち葉だまりでも、ミミズのとれないところもあるのです。そういうところは、落ち葉をどけてみると、下の地面に、モグラのトンネルが、^③ぽっかり口を開けているのでした。モグラが入りこんで、ミミズをとってしまっていたのです。

モグラは、トンネルを落ち葉だまりにつなげておき、ときどきやってきて、ミミズをとっているにちがいありません。落ち葉だまりは、モグラにとって、狩^かりの場であり、ミミズを集めるわなでもあるのです。

モグラは、落ち葉だまりのほかに、狩りの場をもっているようです。ある学者は、モグラのトンネルは、土の中にすむミミズや虫などをとらえる、一種の落とし^④わなだと考えています。土の中の虫が動き回るとき、トンネルに落ちるようになっているというのです。そうだとすると、トンネルも狩りの場だといえるでしょう。

わたしは、モグラが金あみのトンネルのなかで、ミミズをとらえる方法を、かん^アさつしてみました。もし、モグラが、トンネルを狩りの場にしていてとすれば、モグラは、せまいトンネルのなかで、ミミズなどのえものをうまくとらえる、特別^イな方法を身につけているはず^{※⑤}です。

トンネルにミミズを入れると、モグラは、三〜四センチまでそっと近づいたあと、ダッシュして、大きく口を開け、かみつきました。そして、ミミズにのみついたまま、すばやくバックしました。トンネルの中を引きずられたミミズは、ぐったりと弱ってしまいました。

※注 金あみのトンネル…筆者が実験用に金あみで作った、モグラを飼うためのトンネル。
(今泉吉晴「モグラ 地下の宇宙ステーション」より)

チャレンジワークシート②



- (1) 観察
- (2) とくべつ
- (3) 1
- (4) モグラのトンネル
- (5) 4
- (6) 一種の落としわな
- (7) 2
- (8) 狩りの場

- (4) 次の文に「そういうところは、……モグラのトンネルが、ぽっかり口を開けている」と書かれています。
- (6) 直前に「ミミズや虫などをとらえる、一種の落としわな」とあります。
- (7) 最後の段落に、「金あみのトンネル」での実験の様子が書かれています。
- (8) 第四段落に「トンネルも狩りの場だといえるでしょう」とあります。